

FINANCIAL SERVICES AGENCY



FINANCIAL SERVICES AGENCY



金融庁

×

理工系

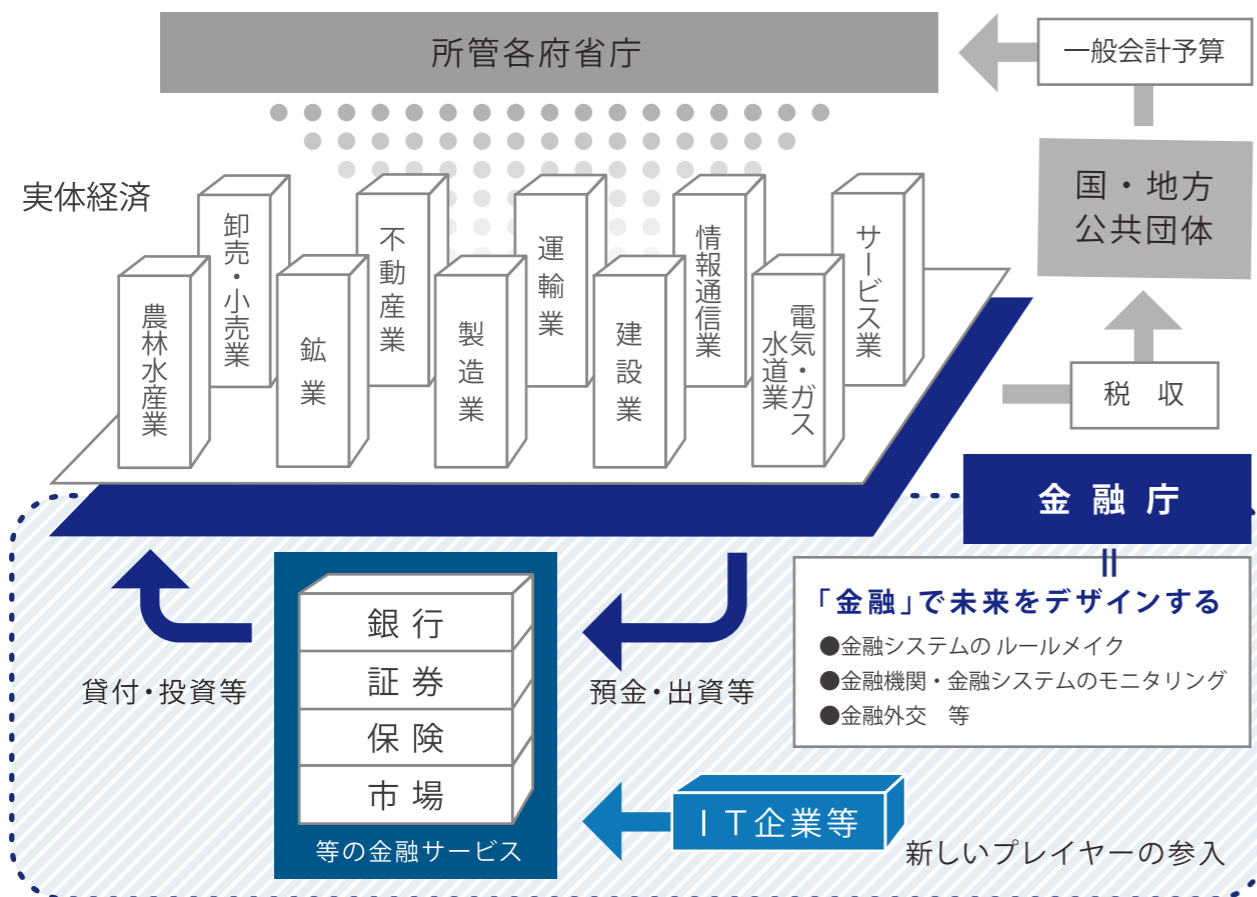
理工系学生のための採用案内



金融庁のミッション

金融 = 経済のインフラ

企業がお金を借りる、みなさんがアルバイトで稼いだお金を預金する、海外旅行の前に保険に加入する……「敷居が高い」「難しそう」といったイメージをお持ちかもしれませんが、金融は日常にあふれた、身近な存在です。このような「経済のインフラ」である金融を安定的に機能させ、みなさんの暮らしを支えるとともに、金融の持つポテンシャルを最大限に引き出すことで、経済のパフォーマンスを最大化させること——それが私たち金融庁のミッションです。



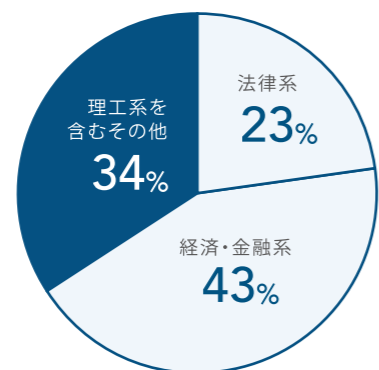
多様な人材が活躍できるフィールド

金融はあらゆる産業・企業・個人を支えており、金融庁の扱う業務は地域経済から世界経済まで幅広くカバーしています。

金融庁は非常に専門性の高い、特定の分野を扱っているように見えるかもしれませんが、大学時代の専攻に関わらず、多様な人材が活躍することができる職場と言えるでしょう。

実際に新規採用においても、多様な専攻分野を持つ方を採用しています。

直近3年間の新規採用者
(総合職・一般職)の出身学部(専攻)



理工系学科出身者の専攻例

- エネルギー基礎科学
- 数学
- 応用化学
- 生物学
- 化学
- 地球惑星科学
- 管理工学
- 都市工学
- 航空宇宙工学
- 物理学
- システム創成学
- 物理学
- 社会学
- 薬学
- 情報理工学
- ユーザー感性学

理工系のフィールドの拡大

金融 × 理工系人材

金融庁はこれまでも理工系の物事の捉え方、論理の組み立て方を備えた人材を必要としてきましたが、金融とITの融合が進み、データの重要性が増している今日、全く新しいものをビジネスとして捉え、「健全なイノベーション」を促進するために、理工系人材をますます必要としています。理工系のバックグラウンドを活かして、これからの金融のあり方を考えてみませんか？

金融庁の理工系採用の特徴



一律に事務官採用	金融庁では、技術系区分と事務系区分の区別なく、一律に事務官採用を行っています。
院生(修士・博士)も採用	学部卒業者と同様に、大学院修了者も積極的に採用しています。
専門知識は不要	金融庁の業務への関心や社会・経済に対する問題意識は持ってほしいと考えていますが、採用時点で金融や経済、法律の専門的な知識は不要です。
幅広い業務を経験	一律に事務官採用を行っている金融庁では、大学時代の専攻による入庁後のキャリアパスの違いはなく、適材適所の配属が行われます。幅広い業務を経験の中で金融や経済、法律等の新たな知識を身につけることが可能です。業務の中では理工系の物事の考え方や論理の組み立て方、数理的能力を発揮することができる機会も多く存在します。

理工系出身入庁1年目職員からのメッセージ



中島 孝明
学生時代の専攻
ユーザー感性学

私は専攻分野に絞って就職活動するのは損と考えていたため、就職活動を通じて様々な業界の話を聞きました。その中で、「上の世代から享受した経済的な豊かさを次の世代に繋げられるような仕事に就きたい」との思いを抱き、そして、それに果たす金融の役割は非常に大きいと感じました。

金融庁の説明を聞いてみると、これからの時代に合う金融のあり方を常に模索していることが分かり、非常に興味を持ちました。特に、国家公務員として目先の利益にとらわれずに将来を語る職員の姿は魅力的に映りました。

みなさんにも是非一度、説明会に足を運んでいただけると非常に嬉しく思います。



那須 佳祐
学生時代の専攻
物性・分子工学

金融庁と聞いて、みなさんはどういった印象をお持ちでしょうか。

もともと私は、「淡々と日々の業務をこなすだけ」といった堅い印象を持っていたのですが、初めて参加した座談会で、若手職員も多様なバックグラウンドを持った先輩職員と活発に議論しながら、積極的に業務に取り組んでいることに驚きました。また、多くの職員が研修や留学制度等を活用し、自己研鑽に励んでいることも知りました。

まずは一度、説明会や座談会に足を運んでみてください。きっと、イメージが変わると思います。



中山 健
学生時代の専攻
物理学

正直なことを言えば、私自身、少し前まで国家公務員になり金融庁に入庁するとは思っていませんでした。もともと金融には興味があり、数理的な素養を活かすクオンツやアクチュアリーへの就職も考えたことがあります。そうした専門職への道もありながら金融庁を志望するきっかけとなったのは、思いがけず参加した説明会で、自由な発想で最適な政策を立案する行政官の仕事が学生時代の研究活動と似ていると気付いたからです。

理工系の出身であっても事務官としてこの国における行政の最前線に立ること、さらには数理的な知識だけでなく経済や法律など様々な分野が業務を通じて学べ、知的好奇心を刺激できることが入庁する決め手になりました。

Interview

01

[若手職員編]



永峰 碧

総合政策局リスク分析総括課
フィンテックモニタリング室
2017年入庁

学生時代の専攻
エネルギー基礎科学

一 学生時代の研究内容と志望動機

大学院では、主にソーラーパネルに関する研究をしていました。大学院で研究に従事する中で、自分の専門に関わらず、最先端の技術がどのように活用され、サービスとして普及していくかに興味を持ちました。最先端の技術ほどそれを理解して利用する人が少ないことから、利用者保護が図られるためには技術の特性を理解した制度設計が重要だと思います。技術革新から生まれた新しく便利なサービスが、より多くの人に安心して使われるような制度設計に携わりたいと思い、金融庁を志望しました。金融に関する専門知識はありませんでしたが、官庁訪問を通じて金融庁の業務の幅広さとそれを担う職員の多様性を知り、自分もその一員として成長したいと思いました。

一 業務の魅力

現在、暗号資産交換業者、いわゆるキャッシュレス決済事業者を含む資金移動業者や、プリペイドカード発行者の検査・監督に携わっています。安定して取引や決済ができるようなシステムを整備しているか、顧客資産がセキュリティ上安全に管理されているかなどの観点から、サービスや業務を確認しています。日々目まぐるしく変わる技術やビジネス環境を捉えながら、新しいサービスの利便性が損なわれることなく安心して使われるようにするために、金融当局としてどうすればよいか考え続けることに面白さを感じています。

■ これまでのキャリアパス

- 2017.4 金融庁入庁（監督局総務課）
- 2018.7 近畿財務局（出向）
- 2019.7 総合政策局リスク分析総括課
フィンテックモニタリング室 主査

Interview

02

[課長補佐編]



山崎 かおり

総合政策局リスク分析総括課
2013年入庁

学生時代の専攻
応用化学

一 海外留学の経験

3年間勤務した後、英国の大学院に留学し、ファイナンスとエコノミクスの修士号を取得しました。様々な経済活動や金融取引の裏付けとなっている理論や、世界各国の金融システムの変遷・課題について改めて体系的に学んだ後、政策の効果を分析する実証研究を行いました。複雑な経済・金融システムの中で実効的な政策を企画立案するためには、課題を多面的に分析することや、関連する施策の効果を検証することが不可欠です。今後は、留学で身につけた知識や能力をアップデートさせつつ、業務で活用していきたいと考えています。

一 現在の業務

現在、金融機関におけるコンダクト・リスク（金融機関の役職員が、社会的要請に背く行動をとること等により、信用や財務が毀損するリスク）のモニタリングを担当しています。金融庁に寄せられる金融サービスの利用者からの相談内容や国内外で発生する不祥事例等の幅広い情報を収集し、金融機関に対する社会的要請の変化を察知し、大きな問題が発生する前に必要な対応を行うことを目指す、とても難易度が高い業務ですが、留学で身につけた知識や課題解決力も総動員して日々の業務に取り組んでいます。

■ これまでのキャリアパス

- 2013.4 金融庁入庁（監督局総務課）
- 2014.7 総務企画局総務課国際室
- 2015.7 総務企画局政策課 企画係長
- 2016.9 英・ケンブリッジ大学（留学）
- 2017.7 英・ユニバーシティカレッジロンドン（留学）
- 2018.7 企画市場局総務課フィンテック室フィンテック第一係長
- 2019.7 総合政策局リスク分析総括課 課長補佐

Interview

03

[幹部職員編]



中島 淳一

企画市場局長
1985年 大蔵省入省

学生時代の専攻
計数工学

理工系のみなさんに伝えたいこと

私が学生だった頃は、人工知能の研究がブームになっており、私自身も、計数工学科の研究室で、コンピュータ上で図形処理（読取・解析）を行うプログラミングを研究していました。アルゴリズムについての研究に関する文献を読み込んで、それをいかに実用に落とし込むか、そういったことを日々考えていました。

その後、大学時代の研究内容とは全く関係のない旧大蔵省（現在の金融庁・財務省）に入ることを決めて以降、「事務官」として約35年間、法律や経済の知識も使いつつ、様々な業務を経験してきました。今、金融を担当する行政官として、これまでの業務を振り返ってみて思うのは、金融庁の業務には理工系の物事の捉え方・考え方を活かせる場面が数多くあるということです。とりわけ、AIやブロックチェーンといった技術革新を背景に、Fintechと呼ばれる新たな金融サービスが次々と生まれている現在においては、現行法令にとらわれずに、柔軟な発想で最適なルールのあり方を考える必要があります。このような思考方法は、全体の論理的整合性を意識しつつ、時には自明とされる前提条件をも疑いながら進めていた大学時代のプログラミングの研究と通じるものがあります。

また、金融は「数字と非常に近い」分野であり、専門分野に限らず、理工系のみなさんの「データに基づく発想（統計学に関する知見や、実証・実験の経験）」は多くの業務で必ず強みになります。

キャリアの中では、他省庁への出向、海外留学、海外勤務など、金融に限らず経済・社会全体に対する視座を高める機会もあります。これまで培ってきた理工系の考え方を活かしつつ、経済・社会全体を俯瞰し、日本経済に貢献したい——このような志を持つ理工系のみなさんは、金融庁で「事務官」として活躍することを考えてみてはいかがでしょうか。

■ これまでのキャリアパス

- 1985 旧大蔵省入省
- 1991 旧経済企画庁（出向）
- 1994 米・ハーバード大学（留学）
- 1997 銀行局中小金融課金融会社室 課長補佐
- 1998 金融企画局信用課 課長補佐
- 2000 金融担当大臣秘書官
- 2003 JETRO パンクーパー事務所長（出向）
- 2006 総務省（出向）
- 2011 総務企画局政策課長
- 2014 総務企画局参事官
- 2016 総務企画局審議官
- 2018 総合政策局総括審議官
兼 金融研究センター長代行
- 2019 企画市場局長